

なんとSDGsパートナー宣言書（企業・団体用）

企業・団体名 井波彫刻協同組合

私たちは、南砺市におけるSDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、南砺市と共にSDGs（持続可能な開発目標）の達成につながる取り組みを実施します。

1. 取り組みに関するSDGsのゴール（○を記入、複数選択可）

					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

2. SDGsの達成につながる取り組みの内容

【井波彫刻協同組合のSDGsに対する取り組み】

持続可能な社会にするために、我々は現状に満足せず、環境に配慮した取り組みを考え、「今、できることから」積極的に取り組み実践しています。

1. 貧困をなくそう

100年先まで続く会社へ

工業製品の台頭により、伝統工芸全体が衰退していくなかで、現代の生活スタイルに合わせて変化する柔軟な姿勢を持ち、100年先も雇用を守り、仕事をし続けることが使命だと認識しています。

2. 飢餓をゼロに

木彫刻を世界に

木彫刻を世界に手間をかけずとも毎年木が生える森は、飢えで苦しむ国を救うかもしれない。そのためには、まず世界中での木彫刻の認知を高めることが重要であると考え、海外での製作実演や工房での木彫り製作体験などを実施しています。木彫がもたらす価値を周知できれば、世界中に木を植える事が可能になり、木ができれば木

彫が食を支えるようになるかもしれないと考えます。

3. 全ての人に健康と福祉を

職人の健康を意識した会社づくり

現在20才代～80才代の職人が在籍していますが、それぞれの働き方に応じて休日を設定するなど健康を意識した会社づくりをしています。

高齢者を意識した町づくり

高齢になると、自宅で過ごす時間が長くなったり、健康を維持するためのお散歩をしたりする方が多くいらっしゃいます。“ただ家にいる、ただ歩く”でなく、景色まで楽しめたら、どれだけ心が安らぐでしょうか。そのような思いから、私たちは木彫刻を通して、高齢者が住みやすく住んでいて楽しいと感じる町づくりに取り組みます。

4. 質の高い教育をみんなに

職人がそれぞれ成長できる取り組み

井波彫刻の技術は、文化財をはじめとした文化芸術にとって欠かせないものであり、文化価値の高い物である。

その技術・職業スキルを若者に広く知らせ、学びの場をもうけ、次世代に向けた技術の継承の新たな形を模索する。

5. ジェンダー平等を実現しよう

男女雇用機会の確保、女性職人の確保

体験新商品開発において、南砺市観光協会と井波彫刻に関わる女性チームでプロジェクトを立ち上げ、井波彫刻アクセサリ体験メニューを開発する。

8. 働きがいも経済成長も

100年先に工芸をつなぐ

新商品開発であったり、総合会館の展示や発信の充実を図ることにより、彫刻の聖地化として広く認められる。

また瑞泉寺との連携を密にして、観光の地として何度きても満足できる環境を整備する事によって雇用を創出し南砺の文化振興・産品販促に大きく貢献することが出来る。

9. 産業と技術革新の基盤を作ろう

伝統と革新の連続

伝統工芸が現代まで廃れることが無かった背景には、その時代時代の生活にあわせた商品にカタチを変えてきたことがあります。

今後もその時代時代の生活に合わせた商品を作り続けることが、事業を継続していく・産業を守る事につながると考え、いつの時も挑戦をし続ける事業者でありたいと考えます。その繰り返しの中から、新しい産業をつくることを目標としています。

10. 人や国の不平等を無くそう

日本から世界へ

日本の伝統工芸である「井波彫刻」を世界に届ける事は、全世界で「木彫刻品」の

癒しや和みを感じていただき、幸福感に包まれていただきたいという思いがあるからです。海外での日本庭園や日本食の普及により、どこの国においても木彫刻品が身近に感じられる世の中になってきましたが、さらに加速させるべく諸外国での木彫文化を紹介する活動をしており、今後も引き続き「木彫で世界中を笑顔に」をコンセプトに取り組みをしていきます。

11. 住み続けられるまちづくり

地産地消

地元の森林で採取された木材を使用し、無駄なガソリンを使わない、住んでいて楽しい街づくり、そして地産地消を心掛けています。

文化財の修理・修復・復元事業をより充実することにより、世界の文化遺産の彫刻分野における技術の提供を実現することが出来る。

12. つくる責任、つかう責任

放置森林の対策と資源の有効活用

啓蒙活動による木彫の知識・価値を発信することにより、長く大切に取り扱い頂く事を作り手として発信していきます。

我々の会社で扱う「木」も、近年放置森林などの環境問題が取り上げられるようになりました。その背景には古来より日本人の生活に身近であった木彫刻品の需要が減少したことがあります。その一因としてプラスチック製品の台頭が挙げられます。需要をうばわれた木材は、結果として木材を手入れし伐採する人の減少を招き、放置森林という問題が表面化してきたのです。環境問題も起きているプラスチック製品の代替として、「枯れて土に還る木材」は幅広く使える素材であり、今、世界中から注目されています。

我々の業界では、かねてより、『使う分だけ木を伐採する』というやり方で、1年分に使う木を伐採していました。

今でもその教えを守りながら、良い循環を作っていて、森林の保護に力を入れています。(放置森林対策)

また、伐採した木は適材適所を使用し、なるべくゴミを減らして全て使えるように工夫しています。(適材適所によるごみの削減)

伝統工芸「井波彫刻」に触れる

日本人の暮らしに古くから根付いている木ですが、現代の人の多くは「木」についての知識がありません。

木と触れ合い、木の現状を知ってもらうことが「つかう責任」に繋がる大切な活動であると考え、様々な場所で木彫に触れるワークショップを実施しています。

14. 海の豊かさを守ろう

素材そのものが自然に優しい木

昨今、海洋プラスチック廃棄物問題が重要視されていますが、プラスチック製品が台頭する以前、我々の日常には木製品が身近でした。木はプラスチックと異なり朽ちるものです。役目を終えれば自然に還ることができる木は素材そのものが自然に優

しいものです。

15. 陸の豊かさを守ろう

放置森林の木の利活用

井波彫刻協同組合として、材料である木材の植林事業を行うことにより、将来先に渡っても材料の確保に努め、また持続可能な森林経営を彫刻業界からも広く発信していきます。

放置森林は他の樹木を侵食し、地盤が弱くなるなど陸上生態系に悪影響を及ぼしています。弊社では、放置された森林にも手を入れ、良い循環づくりをしています。放置森林の木を用いて、木をチップにし、有機肥料として畑の土に混ぜることで土壌が改良され、野菜などの栄養や収穫量に差が出ると言われるなど粉碎した木にも価値があります。

また、放置木材の木を用いて、森林に植樹後の幼木を鹿害から守るためのネットの支柱やフックに使うための木杭を製作し、森林の保護回復のお手伝いをしています。木杭は、やがて自然に還るエコな杭として活躍しています。(森の再生に関連する商品の制作)

16. 平和と公正をすべての人に

木彫をよりたくさんの方に知ってもらえる活動

循環型社会を象徴する木彫をよりたくさんの方に知ってもらえるように活動しています。

木彫製品の普及のみならず、木の良さや現状について、木彫のワークショップなどを通して伝えています。

17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な支援

SDGs に対する取り組みを推進している方に向けて、SDGs をより普及させるために「木彫の QR コード」の開発・製作をするなど、持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバルパートナーシップを活性化しています。

「木彫の QR コード」は、自然素材でできた環境にやさしい PR 用の QR コードです。

その売り上げの中から循環型社会を作る活動に対して寄付をする仕組みをつくり、持続可能な支援を続けています。

これからも持続可能な社会にするために、我々は現状に満足せず、環境に配慮した取り組みを考え実践し、業種を超えたパートナーシップを築いていきたいと考えています。

※ 1. で○を記入したゴールにつながる取り組みの内容などを記入